



## 入学式の言葉

満開の桜が咲き誇り、温かい日差しに包まれたこのよき日に、普通科 119 名、福祉科 37 名の入学を許可いたしました。

第 62 回生の入学生の皆さん、保護者の皆様ご入学おめでとうございます。

また、本日はご来賓として同窓会長 入江 陽子様、PTA代表としてPTA会長の井場 美穂子様にご臨席をいただき、誠にありがとうございます。

本校は昭和 39 年全国初の看護師養成の課程を持つ県立高校として創立し、62 年目を迎えました。本校は、看護科・福祉科の専門高校としてこれまで神奈川県の人材を育成してまいりました。その教育を土台に新たに令和 7 年度「神奈川県立二俣川高等学校」として普通科と福祉科の学科併置校となりました。普通科は、看護・医療・保健の進路意識を高めるとともに、多様な進路実現を支援する教育を行う普通科として設置されました。また、福祉科は福祉の専門的な学びを通して福祉の専門職として基礎的な力を育み将来の職業人として活躍できる人材を育てる福祉科として設置されています。本校は、看護科としての長い伝統を土台としながら、特色ある普通科として、福祉科としてスタートします。人でいうと還暦を終えたところで、新たなスタートとなる今年度、生徒の皆さんは入学されました。記念すべきスタートの年の入学生となります。ぜひそのことを心にとめて学校生活を送ってください。

さて、現代社会のビジョンとして、Society5.0 ということがあります。5.0ということですから、1.0から4.0まで段階があります。1.0 は狩猟社会、2.0は農耕社会、3.0は工業社会、4.0は情報社会、そして Society5.0 とは、「仮想空間と現実空間の高度な融合—人間中心の社会」ということです。例えば、車でいえば自動運転で事故がすくなくなることだったり、家のハウスキーピングをロボットが行ってくれたりということです。そのような社会の中で、一人ひとりの多様な幸せを実現、well-beingを実現できる社会になるということです。

また、今から数年前になりますが、10年から20年以内には、「AI の導入によって日本の労働人口の49%の仕事がなくなる」ということが、ある共同研究として発表されました。生成型 AI ができ、社会は大きな変革の時代を迎えています。仕事でいえば、手紙を例に挙げると、江戸時代は飛脚という方々が手紙を運び、明治時代になって郵便制度ができ、電車や車の時代になると大きく変わり、今メールというあっという間に相手に届く手段ができと様々に仕事は変化していきます。先ほどお話ししたように、なくなる仕事、なくなる仕事ということがありました。将来、おそらく AI 技術、もしかしたらロボットと共存しながらも、人が担わなくてはならない仕事として皆さんの力は必要になります。では、10年後、20年後の皆さんを想像してください。社会の中心となり、活躍していることと思います。では、そのような皆さんが今身につけておくべき力は何でしょうか。

このような時代を生きる私たちですが、私は「人にしかできないこと、人がやるべきこと」がこれからの時代で必要になることだと思います。人にしかできない仕事は、これからもたくさんあります。特に、福祉や医療の場では人とのかかわりの中では人の力が必要です。これからの社会では人が人としてなすべきことの実現には、二つの力が必要です。コミュニケーション力と創造力、クリエイティブな力です。これを鍛え社会に出るための力を蓄えるのが高校3年間です。

そして、人として豊かな心を育むことが大切です。本校は、今までの教育の柱となる「3つの心」を育てまいりました。「看護の心 福祉の心 奉仕の心」です。ヒューマンサービス・ヒューマンケアという言葉があります。この言葉の意味は「その人がその人らしく生きるための支援、幸せに生きることを支援する」という意味があります。その支援を通して、支援をする人もその人らしく幸せになるということがあります。そして「奉仕の心」とは、他者を尊重し相手を思いやる心を持ち関わる心です。これらの心を育むことは、決して看護や福祉に限らずこれからの時代で一人ひとりが幸せに生きる上で大切な心、平和な社会を作り維持する心だと考えます。

そして、保護者の皆様、ご入学おめでとうございます。新入生の皆さんの晴れやかな姿に成長をいっそう感じられていることと存じます。教職員一同、新入生の皆さんの学校生活が充実したものになるよう支援してまいります。保護者の皆様、どうぞご理解とご支援のほどよろしくお願いいたします。

62 回生の生徒の皆さん、保護者の皆様、ご入学おめでとうございます。

令和4年4月8日

於：よこはま看護専門学校 講堂